

アミロイドPET検査説明書

* アミロイドPETについて *

認知症には多くの原因疾患や病態があり、最も多いのはアルツハイマー病です。アルツハイマー病は脳内にアミロイドβプラークという特殊なタンパク質がたまることを特徴としています。アミロイドPET検査では、微量の放射線を出す診断用の薬剤を使用し、脳内にアミロイドβプラークがたまっているかどうかを調べます。この検査は、アルツハイマー病の診断に有用な検査のひとつです。薬剤の注射をしてから約90分休んだ後、20分撮影をして終了します。撮影中のみ仰向けで動かないように気を付けてください。

* 使用する薬剤について *

当センターでは、フルテメタモル(商品名ビザミル)という検査薬を使用します。アミロイドPET検査薬として国内外で広く用いられている薬剤ですが、まれな副作用として本剤との関与が否定できないアレルギー反応(アナフィラキシー0.2%、胸部不快感など1~5%未満、頭痛など0.5~1%未満)が報告されています。万が一、アレルギー反応が出現した場合は、症状に応じて対応させていただきます。検査で使用するフルテメタモル(商品名ビザミル)という薬剤は微量に放射線を放出します。ただし、時間がたつにつれて放射線を出す能力が減少していきます。また、体内に入った検査薬剤自体も尿などから体外に排出され減少していきます。そのため検査翌日には体内から放出される放射線はほとんどなくなってしまいます。

* 検査による被ばくについて *

アミロイドPET検査では、放射線を出す薬剤フルテメタモル(商品名ビザミル)を注射します。また、PET/CT機器を使用するのでPET検査にCT検査分(低線量で撮影)を加えた線量が全体の被ばく線量となります。検査全体での被ばく線量は身体に影響が出る量よりもはるかに低い値です。胃のX線(バリウム)検査と同等の被ばく量です。

* 検査後の注意点 *

検査当日は妊婦や小さなお子様とは少し距離をとってください。授乳中の方は検査当日は授乳できません。検査薬の排泄を促すため、検査当日は水分を多めにとってください。